

事業の背景・目的

近年個体数の急激な減少が確認されている対象種（アマノヤマタカマイマイ・ヘソアキアツマイマイ・タカネヒカゲ【ハヶ岳亜種】）について飼育に向けた施設の整備、先行飼育施設や生息地の情報収集等の事業を実施する。生息域外保全を軌道にのせることで、遺伝的多様性を確保した上での保険個体群の維持と、飼育下でしか得ることのできない科学的知見の集積を実現させる。そしてこれら得られた個体や知見については、生息域内保全と連携のもと、生息地へ還元することで、より確実に効果的な保全につなげていく。

事業の内容

ア 沖縄県産陸貝類の飼育繁殖及び科学的知見の集積

アマノヤマタカマイマイとヘソアキアツマイマイの飼育繁殖事業に取り組んだ。異なる温度下での成長率、同化率を測定し、成長率が良い温度帯を明らかにした。また、生息域外保全技術交流会に出席し、関係者と知見・技術の共有を図った。



イ タカネヒカゲ幼虫の飼育技術確立及び科学的知見の集積

長野で採卵されたタカネヒカゲの孵化・生育に取り組んだ。また、飼育技術交流会に出席して、関係者と知見・技術の共有を図った。



ウ 普及啓発

保全に関する普及啓発活動も開始した。平日には地元の高校生を対象としたツアーガイド、土日には小中高生と親を対象としたツアーガイドをそれぞれ実施した。また新聞やメディアの取材も受け、陸貝の保全活動についての動画も公開された。

得られた成果

ア) 令和5年度に導入したアマノヤマタカマイマイ15頭、ヘソアキアツマイマイ30頭については、現在、アマノヤマタカマイマイはファウンダー死亡により繁殖を停止しているが、まもなくF1個体が性成熟するため、次年度に繁殖を再開する予定、ヘソアツマイマイは現在181頭、今年度の産卵数は344個であったが、稚貝の死亡率が高く、生存率は21.2%であった。2種について異なる温度下（21℃,24℃,27℃）での成長率と同化率試験を実施したところ、24℃での管理が成長率、同化率が最も高いことが明らかになった。

イ) 78匹の幼体は全て死亡した。本来の野生での行動パターンの再現ができず、餌場にたどり着けなかったことと、食草の嗜好性が低かったことが原因として考えられるため、次年度はそれらを考慮した飼育環境を実現し、再度育成に取り組む。

ウ) 保全に関する普及啓発活動も開始した。平日には地元の高校生を対象としたツアーガイド、土日には小中高生と親を対象としたツアーガイドをそれぞれ実施した。また新聞やメディアの取材も受け、陸貝の保全活動についての動画も公開された。